

## 馬の発育の調査からⅡ

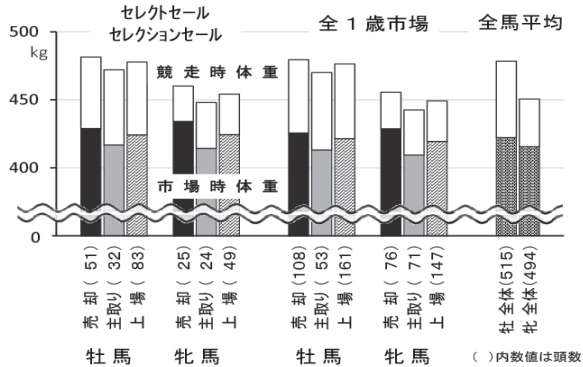
### — 1歳馬市場にむけて —

この誌面ではこれまでに、「標準成長曲線」の数値を公開し、それにまつわる、馬の成長に関する情報をいくつか紹介してきました。そして、生まれた時期によって成長には違いがあるものの、競走馬になる頃の大きさは、遺伝などによって決まっています。飼養管理の改善などによってでは、変えることのできない面のあることも示しました。

とはいえサラブレッド生産界では多くの馬に対して、競走馬としての活躍以前に、馬主さんを買ってもらうための努力をしている事は確かです。そこで今回は、1歳市場の頃までの成長が、市場での売買にどのように影響しているのかを調べてみました。

調査対象とした馬で、1歳市場時の体重、競走時の平均体重が分かっていたのは約1,000頭の馬で、さらにそのうち市場に上場された馬が約300頭いました。市場時の体重は、各馬の6～8月の実測値の2点から7月15日の値として算出しました。競走時体重は、各馬の生涯競走時の体重のすべてを平均したものとしました(図一1)。

図一1 1歳市場 売却馬・主取馬の市場時・競走時体重



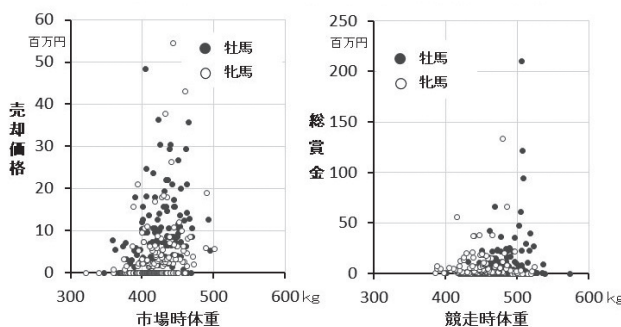
集まったデータでは、どの1歳市場でも大きな馬のほうが売却されているようです。そしてその傾向は、牡馬よりも牝馬の方が強く、なんと売却されている馬の平均では、牝馬のほうが、牡馬よりも大きいことになっています。実は牝馬は、上場されている馬自体が平均して大きく、小さい牝馬は上場すらしていないようです。どうやら売る側も、買ってもらえるような馬に育て、上場しているようです。

売却された馬は、市場時の体重でも大きかったように、競走馬になっても同様に大きくなりました。このことは、市場時に大きい馬は、その時点だけの「見栄えがいい」のではなく、競走馬になっても大

きくなる馬と見込んで売買されているのでしょう。

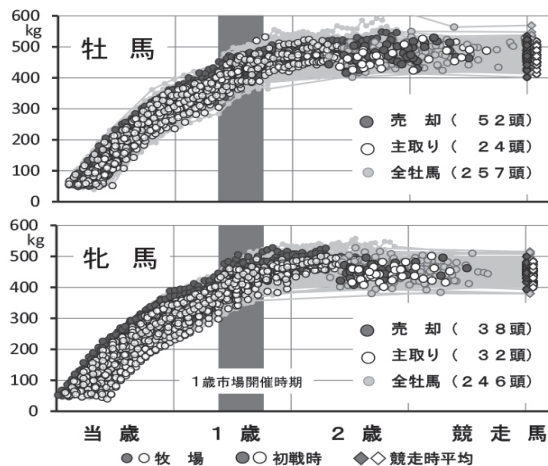
ただし大きい競走馬のほうが、成績もいかどうかは分かりません。市場時体重と売却価格、売却された馬の競走時平均体重と総獲得賞金額の図を作ってみました(図一2)。大きい馬は高く売れ、競走馬としても良く稼ぐ、といった事は、一概には言えないようです。

図一2 1歳市場 売却馬・主取馬の成長の違い



図一3は、1歳市場上場馬の、売却馬と主取馬の成長の違いを示したものです。1頭1頭を追ってみるのは、この図からは難しいですが、市場に向けての「付け焼刃」の飼養法の改善に頼っているようなことは無いと思います。牧場で個々に管理している方々はいかががお考えでしょうか。

図一3 市場時体重と売却価格 競走時平均体重と総賞金



これまでの誌面で、標準的な成長について情報を提供してきましたが、「標準」といっても「理想」とか「目標」といったものではありません。「標準」に沿った成長をした馬が、その後競走馬として活躍するかどうかは分かりません。市場に向けて、とりあえず大きな馬というのも正しいのかも分かりません。「標準」というのは、その程度の意味しか持たないのかもしれませんが、それでも何か参考にしていただければと思います。情報を提供してきました。